

生き生きと学び合う子どもの育成 －伝え合う力を育てる指導の工夫－

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の実態把握（アンケート調査）
- (2) 研究授業による検証
- (3) 理論研究（話す力・聞く力を伸ばし、「伝え合う力」を育てる指導・読書活動・表現活動について）
- (4) 学級経営的な視点による、日常的継続的な指導
- (5) ブロック研究（低学年ブロック・高学年ブロック）や全体研究
- (6) 全校的な取り組み（読書活動・表現活動等）

2 研究実践

- (1) 理論研究
ア『話す力・聞く力を伸ばし、「伝え合う力」を育てる指導・読書活動・表現活動』についての学習会（義務教育課 指導主事 保坂 伸 先生）
- (2) 関連研究
ア『俳句の指導法』（玉宮小学校非常勤講師 雨宮 昭夫 先生）
- (3) 実態調査の実施
ア5月第1回目のアンケート調査実施 課題と手だての確認
イ1月第2回目のアンケート調査実施 5月との変容から、成果と課題確認
ウ標準学力検査（国語科）の実施と結果の考察
- (4) ブロック研究
ア話す力・聞く力を伸ばし、伝え合う力を育てるための授業案の検討
イ話す力・聞く力を伸ばし、伝え合う力を育てるための日常的な活動の充実
ウ指導事項の効果的な活用
- (5) 授業実践 「話すこと・聞くこと」が楽しく意欲的にできるような教材の工夫や、評価の工夫を中心に、全学年が研究授業を実施した。
- (6) 全校的な取り組みや各学級での取り組み
ア「お話集会」を低学年（図書室）と高学年（視聴覚室）に分かれて行い、児童全員が1回ずつ各低・高学年児童の前でスピーチを実施した。
イ各種集会での感想発表、代表委員会や児童総会等での意見発表時の話し方の指導。
ウ業前読書や親子読書・お勧めの本の紹介・読書環境の整備等の推進。

II 成果と課題

1 成果

- “伝え合う力” について、理論研究を行い理解が深まった。
- 客観的に児童の実態を把握するために、意識調査や国語科の学力テストをし、結果の検討をし、手だてについて確認した上で授業や活動を進めることができた。

- 国語科から他の教科へと発展し、それが、日常の児童の様子（子ども個々のコミュニケーションが円滑に行われるようになったこと）にも現れた。
- 日々の取り組みにより、人前で話す力が身に付いてきている。
- 今年度は、国語だけでなく総合・特活での研究授業ができてよかった。
- 研究授業を全学年で行い、どの学年も児童の実態にあったテーマ・教材を工夫し、児童が主体的に取り組み、伝え合う力を育てることができた。
- 5・6年生が総合の学習として合同で「新聞づくり」に取り組めたことは、学習を通して、満足感・達成感といったものを感じることができよかった。
- 読書活動の研究では、綿密な計画のもと意欲的に実践され、教師による本の読み聞かせ、おすすめの本の紹介・親子読書等、児童が進んで読書活動をする姿が見られた。
- 読書に親しめる環境が整い、読書の幅が広がり、読書量が増えた。読書習慣がしつかり身につく、意欲的に読書に取り組んでいる。
- お話集会では、今年度は低高学年に分かれて実施した。少人数となり、話し手は、恥ずかしさを克服し話せるようになり、聞く方もしつかりと聞いて質問や感想が多く出るようになった。
- 講師を招き、俳句の学習の指導をしていただき、学習が深まった。

2 課題

- 学級や学校全体で話をする場面をたくさん設けてきた。しかし、話の内容がひとつのパターンからぬけきれていない。そのため、なかなか見本となるようなものがなかった。先生方の話は、いろいろ用意してあって、興味を引くものであったので、それを見本にという意識を子どもたちに持たせたい。
- お話集会では、話の内容も従来の自分が体験したことを話す他に自分の考えを主張するような内容等、工夫させたい。また、その年度の児童の実態をふまえて目標を定め、それに向けて取り組んでいく必要がある。

III 成果物

1 指導案名

- ア第1学年 国語科「話すこと・聞くこと」
はっきりはなそう「みんなにしらせたいこと」(光村図書1年上) 菊島 敬子
- イ第2学年 国語科「話すこと・聞くこと」
「あったらいいな、こんなもの」(光村図書2年上) 新海 小緒里
- ウ第3・4学年 学級会活動「クリスマス会をしよう」 岡 利光、早川 夏樹
- エ第5・6学年 総合的な学習の時間「みんなで玉宮小新聞をつくろう」
新藤 徹、竹川 由美子、雨宮 千華

2 低・中・高学年別「話し方・聞き方・話し合い方」の指導事項

- ・低中高学年の系統性や発達段階を考慮して児童の実態をふまえた玉宮小独自の指導目標としての指導事項を設定した。
- ・指導事項をもとに児童への意識付けの掲示物を作成したり、個人カルテを作成したり、授業の中で評価に利用したりと活用した。

3 「話すこと・聞くこと・話し合うこと」実態調査結果(5月→1月の変容)

(研究主任 竹川 由美子)